

P2-044

医療的ケアを必要とする子どもと家族への退院支援に関する文献レビュー

西村 美紗希、上山 和子

新見公立大学健康科学部看護学科

【緒言】小児医療の進歩や体制整備に伴い、多くの子どもの命が救われるようになったことを背景に、人工呼吸器による呼吸管理、経管栄養や中心静脈栄養など医療的ケアの必要な子どもが、地域や在宅で生活するようになってきている。また、医療的ケアを必要とする子どもの数は年々増加傾向にあり、近年、医療的ケア児等コーディネーター等育成が開始されるなど、医療的ケアを必要とする子どもたちへの地域体制作りも重要となってきた。

【目的】本研究では、先行研究より医療的ケアを必要とする子どもと家族への退院支援に関する研究の動向と研究内容を検討し、今後の退院支援及び地域支援での課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】1. 研究デザイン：文献研究。2. 研究方法：2010年～2019年の10年間分を、医中誌web版、CiNiiおよびJ-stagを用いて、「医療的ケア」と「子ども」or「小児」と「退院支援」、「医療的ケア」と「子ども」or「小児」と「在宅」のキーワードで文献検索を行った。重複している文献および英文文献を除き、原著論文40件を本研究の対象とした。3. 分析方法：選定した研究内容を類似性に基づき分類した。4. 倫理的配慮として、著者の意図を十分に理解し、記述内容の意味を変えないように努めた。

【結果】2010年からの10年間を概観すると2016年が11件と最も多かった。研究デザインとしては、質的研究が多く27件であり、調査方法としては面接調査を用いた研究が22件と最も多かった。調査対象としては母親を対象に行った研究が最も多かった。研究内容を概観すると家族の思いに着目した研究が多く、内訳としては、「医療的ケアを実践する上での母親の困難感」「在宅移行に関する母親の不安」「退院に向けた家族の思い」「退院に向けた訪問看護師や他職種との連携」「社会資源を活用した成長発達への支援」に分類された。

【考察】医療的ケアを必要とする子どもをもつ母親は、入院中から退院や在宅移行に向けて不安を抱えており、不安を解消するための支援が必要である。母親の不安を軽減するためには、退院後医療的ケアが継続的に実践できるよう、訪問看護や他職種との連携を図り、地域を含めた社会的な支援体制の構築が課題である。